

平成30年度病害虫発生予報第4号

平成30年 7月 2日
愛 知 県

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	やや少ない	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は少ない	± -
	紋枯病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は少ない 7月の気温は高い	± - +
	トビイロウンカ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	セジロウンカ	やや少ない	県全域	6月の発生量はやや少ない	-
	ツマグロヨコバイ	少ない	県全域	6月の発生量は少ない	-
	カメムシ類	平年並	県全域	畦畔における6月の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	やや少ない	県全域	6月の発生量はやや少ない	±
	イチモンジセセリ (イネツトムシ)	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±

・ 留意事項

セジロウンカの発生量は本田でやや少なく、予察灯（6月第3～5半旬まで）では誘殺されていません。また、トビイロウンカは本田でも予察灯でも確認されていません。発生状況等詳細は本日発表の「ウンカ情報第1号」を参照してください。

カスミカメ類が一部のほ場の畦畔で多く捕獲されていますが、全体的に発生量は平年並で、予察灯における誘殺数も平年並です。発生状況等詳細は本日発表の「斑点米カメムシ類情報第1号」を参照してください。

イチモンジセセリの発生を確認しています。今後気温が高く推移すると、発生量が多くなるので、ほ場の状況をよく観察し、多い場合は防除を実施しましょう。

5月下旬に豊田市、安城市、西尾市など17地点85のムギほ場で捕獲したヒメトビウンカの縞葉枯病保毒虫率は5.7%で、平成24年から29年の過去6年間のデータでは、29年（9.4%）、28年（7.8%）に次いで高くなっています。6月下旬の調査で、豊田市、知立市、西尾市の水田において発病株が確認されています。ほ場をよく観察し、縞葉枯病の症状を認めた場合は、本病を媒介するヒメトビウンカの防除を行いましょう。

果樹

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
ウンシュウミカン	そうか病	平年並	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量は少ない	＋ －
	黒点病	やや少ない	県全域	5月の枯枝の孢子形成量は平年並 7月の降水量は少ない	± －
	ミカンハダニ	多い	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の気温は高い	＋ ＋
	チャノキイロアザミウマ	平年並	県全域	粘着トラップにおける誘殺数は平年並 6月のイヌマキにおける発生量は平年並	± ±
ナシ	黒星病	やや少ない	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は少ない	± －
	うどんこ病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	ナシヒメシンクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 6月のモモの被害新梢率は平年並	± ±
	ハダニ類	多い	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の気温は高い	＋ ＋
モモ	せん孔細菌病	平年並	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量は少ない	＋ －
	灰星病	やや少ない	県全域	4月の発病花率は平年並 6月の降水量は平年並 7月の降水量は少ない	± ± －
	ナシヒメシンクイ	平年並	平年並	6月の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数はおおむね平年並	± ±
	モモハモグリガ	やや少ない	県全域	6月の被害葉率はやや低い フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	－ ±
	ハダニ類	多い	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の気温は高い	＋ ＋
ブドウ	べと病	やや多い	県全域	6月の発生量は多い 7月の降水量は少ない	＋ －
	黒とう病	やや多い	県全域	6月の発生量は多い 7月の降水量は少ない	＋ －
	チャノキイロアザミウマ	平年並	県全域	粘着トラップにおける誘殺数は平年並 6月のイヌマキにおける発生量は平年並	± ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
カキ	角斑落葉病 円星落葉病	やや少ない	県全域	前年秋の発生量は平年並 6月の降水量は平年並 7月の降水量は少ない	± ± -
	うどんこ病	やや少ない	県全域	6月の発生量はやや少ない	-
	コナカイガラ ムシ類	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	予察灯及びフェロモントラップ における誘殺数は平年並 7月の気温は高い	± +

・防除対策

[ウンシュウミカン・ミカンハダニ]

スターマイトフロアブルやマイトコーネフロアブルなどで防除しましょう。

[ナシ・ハダニ類]

コロマイト乳剤、ダニコングフロアブルなどで防除しましょう。

[モモ・ハダニ類]

ダニコングフロアブルやマイトコーネフロアブルなどで防除しましょう。

[ブドウ・べと病]

6月1日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。

[ブドウ・黒とう病]

フルーツセイバーやオンリーワンフロアブルなどで防除しましょう。

[果樹共通・カメムシ類]

4月3日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第1号」及び5月25日発表の「果樹カメムシ類情報第2号」を参照してください。

・留意事項

チャノキイロアザミウマの発生量はおおむね平年並ですが、ウンシュウミカンでは一部の地域で多い状況です。今後の発生状況に注意しましょう。有効積算温度を利用した第3世代成虫の発生ピーク予測日は名古屋は6月30日、大府は7月1日、豊橋と蒲郡は7月4日、愛西、南知多、豊田、伊良湖は7月5日、岡崎は7月6日、新城は7月8日で、6月15日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第2号」から1日から2日前後している地域があります。また、第4世代成虫の発生ピーク予測日は中山間地に位置する稲武を除いて7月18日から27日で前年より4日から7日早くなっています。今後も気温が平年に比べ高い状況が見込まれており、さらに防除適期が早まることが予想されます。ほ場での発生状況に注意し、適期に防除しましょう。7月17日発表予定の「あいち病害虫情報最新情報」ではそれまでの実測値で再計算した予測日を掲載する予定ですので、参考にしてください。

台風などの影響で風を伴う降雨があると、モモのせん孔細菌病の発生量が増加します。今後の気象状況に注意しましょう。

前年秋にカキ角斑落葉病・円星落葉病の発生量が多かったほ場では、防除を実施しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	やや少ない	平坦部	6月の発生量は平年並 7月の降水量は少ない	± -
	白さび病	平年並	山間部	6月の発生量はやや多い 7月の降水量は少ない	+ -
	アブラムシ類	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い 黄色水盤、黄色粘着トラップに おける誘殺数は平年並	+ ±
	ハダニ類	多い	県全域	6月の発生量は多い 7月の気温は高い	+ +
	アザミウマ類	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い	+
	オオタバコガ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	±

・防除対策

[キク (露地) ・アブラムシ類]

発生ほ場では、ウララ50DFやコルト顆粒水和剤などで防除しましょう。

[キク (露地) ・ハダニ類]

発生ほ場では、アグリメックやカネマイトフロアブルなどで防除しましょう。

[キク (露地) ・アザミウマ類]

発生ほ場では、ディアナSCやモスピラン顆粒水溶剤などで防除しましょう。

・留意事項

白さび病が多発しているほ場があります。被害葉を切除して適切に処分するとともに、系統の異なる農薬でローテーション防除しましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」(アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/yougo.html>)、予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>)を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報 (名古屋地方気象台6月28日発表)

〈特に注意を要する事項〉

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

〈予想される向こう1か月の天候〉

期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少なく、後半は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、少ない確率50%です。日照時間は、多い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率60%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

[気温] 低い：10% 平年並：30% 高い：60%

[降水量] 少ない：50% 平年並：30% 多い：20%

[日照時間] 少ない：20% 平年並：30% 多い：50%